

小学生英語の新学習指導要領は2020年度から本格導入され、3年生、4年生で「外国語活動」（英語活動）、5年生、6年生では「外国語」（英語）として教科となりました。以前は、小学5年生、6年生で外国語活動として英語コミュニケーションを楽しんだ子供たちが、中学校に入って「教科」として英語に触れると、とたんに英語を嫌いになってしまう、といった困った状況がありました。それを解消するため、2020年から、外国語活動を小学3、4年生に早め、楽しく英語に触れた流れから、同じ小学校環境の中で小学校5、6年生から英語を「教科」として扱い、中学校での英語学習にスムーズに移行できるよう対策が取られたのです。

また、以前は英語で「何を学ぶか」という知識を重視していた内容から、「何ができるか」という能力育成を重視したものへと変わり、それを柱に小学校、中学校、高校と、英語教育に一貫性を持たせています。

小学3年生、4年生の授業では、教科書はなく、教員が学習内容を決めて授業を行います。「教科」ではないので成績表で評価はつきません。授業時間は年間35時間です。

小学3年生、4年生の英語の授業の目的は英語を「聞く Listening」「話す Speaking」を通して、英語コミュニケーションに慣れ親しむことが一番の目標です。小学生にとって身近な物事を題材に、ゲームやクイズなどを楽しみながら英語に触れます。学級担任や英語を専門とする先生が、ALT (Assistant Language Teacher (外国語指導助手)) とともに行うティーム・ティーチング等を活用しながら指導します。小学3年生、4年生の目標は英語を知識として勉強するのではなく、基本的な表現を通して、外国の文化を知り、日本語との音の違いを発見して楽しみながら、コミュニケーションを体験することです。

小学5年生、6年生では、英語が「教科」となり、文部科学省の検定に合格した教科書が使われます（“We Can!”）。教科なので成績として評価がつきます。授業時間は年間70時間です。小学5、6年生では、「聞く Listening」「話す Speaking」に加え、「読む Reading」「書く Writing」の4技能を身に着けることを目指し、ティーム・ティーチングを活用しながら、指導します。小学5年生、6年生の目標は、「読む」「書く」では日本語との語順・文構造の違いに気づき、意識して使えるようになることです。「話す」はさらに2つの部分に分かれ、意図を伝え合う情報の「やり取り」と、伝えたい内容を整理してから伝える「発表」の2つになります。

ですから、4技能、5領域を学習することになります。

さらに、小学5年生、6年生で学ぶ英語表現は、自己紹介から、他の人やあこがれの人の紹介へと範囲が広がります。また、思い出を話す時に過去形の動詞を、中学校での生活や将来の夢を語る時に未来形が使われています。文法という形では教えませんが、会話の中

に自然に文法のルールが入っていて、自分で気づくことができるようになっていきます。

小学校英語教育はコミュニケーションの中で英語をツールとして活用できる力を育てることに重点を置いています。小学校での要修得単語は約700語といわれており、コミュニケーションの基礎となります。家庭などで英単語や英語表現を生活に取り入れ、英語を使える環境を作ってサポートしていくことがとても大切であるといえます。